



第163回やすらぎの会通信

令和5年10月21日(土)実施

通信をご愛読の皆さん、いかがお過ごしですか？今年の猛暑は何だったのかと思わせるくらいのお天気の移り変わりに驚くばかりです。6回目のワクチンを打ってもらいましたが、これだけ打ってもまだ安心できないというコロナの猛威に閉口するばかりです。それにしても早いもので、あと二ヶ月半も経つと新しい年を迎えることになるんですね。

娘の不登校に親がしてはいけないこと？

【中学生の事例】

中学2年の娘が不登校状態に陥っています。朝起きられなくなり、朝食はとらず、服装に着替えるのにも時間がかかり、1週間に3日は登校を断念します。スクールカウンセラーからは、「不登校です。登校刺激は避けましょう」とされています。学校に行けない子どもに、親が「学校に行け」と言うのは当たり前のことと思いますが、専門家からそう指導されて困っています。ところで、他にも親がしてはいけないことはあるのでしょうか？

確かにわが子を登校させようとしても、「してはいけない」と言われるのは困ることですね。でも、わが子の問題です。解決のための努力はしたいものですね。親がしてはいけないことはありますが、これもケースバイケースなのです。1点目は、親の気持ちはよく分かりますが、わが子の不登校を過剰に不安がり、嘆きグチをこぼすことです。不登校の問題は、そう簡単には解決できないものです。ついつい「あなたのこれからが心配。だから・・・」となりがちですが、それはわが子に余計な負担をかけることになります。

2点目は、親自身ではなく、子どもだけを変えようとすることです。子どもが不登校になると、わが子のマイナス面だけがよく気づき、それを指摘しようとしてしまいます。これは子どもの閉塞感をさらに悪化させてしまうことになりかねません。大切なのは、親自身が自分をふり返り、自分を変え適切な対応をすることです。3点目は、何もしないで見守ることだけです。確かに見守ることは必要ですが、何もしなければそのまま続き、適切な対応を怠ればさらに悪化するのが不登校の一般的特徴です。

ただし、不登校の状況を見ながら働きかけることが大切です。もし働きかけのタイミングがよく分からないのであれば、スクールカウンセラーなどの専門家に相談して下さい。親の勇気、忍耐力、知恵を絞る努力が問題解決につながります。不登校は長く続くと、必ず二次的な問題が発生します。長欠感情といって、長く休むことに慣れてしまってますます登校から遠ざかることです。学業面の遅れも心配になります。こうなりたいという自己実現の意欲も減退してきます。不登校が始まった時とは明らかに異なる、より深刻な問題です。時間とともに子どもの内面はいつも変化し続けています。したがって、見守っているだけでは解決しないのです。そのためには、決して親だけが抱え込まないことです。スクールカウンセラーを始め、支援してくれる人が沢山いることを忘れないで下さい。(高)



通信をご愛読の皆さん、通信の送付が遅れて誠に申し訳ありません。通信の裏面は山代表が書いておりましたが、体調不良のため書くことができなくなりました。そこで、私の著書『不登校だっていいじゃないか』（アントレックス社）の内容を順次ご紹介いたします。なお、11月の定例学習会は、18日（土）13時半より白山市出城公民館で行います。山会長が定例学習会とは別にやっておられた山カフェ（第2土曜）は、当分の間中止とします。（高）



不登校だからといって無理する必要はないんだよ！

かつて直面したことのない子どもの「不登校」という事態に、多くの親御さんは冷静でいられなくなります。そして、躍起になって原因探しを始め、家族同士で互いに責めあい、家の中は重い空気に包まれます。そして、それを敏感に感じ取った子どもは、自分のせいで家族がケンカをしていると自分を責め続けることとなります。子どもはますますふさぎ込み、悪循環となります。

こうした事態を家族で乗り越えるために必要なことは、「発想の転換」です。自分の子どもに、「みんなと同じように元気に学校に通ってほしい」と思うことは、ある意味当然かもしれませんが、子どもの個性は一人一人違います。「みんなが通っている学校に行けないなんて、ウチの子はダメな子なんだ!」と思ったのでは、子どもをすべて否定してしまうことになります。

いつも子どもの長所を見続け、短所・欠点については個性だと認めてあげましょう。個性と考えれば無理やり治す必要もなくなります。それと同じように、現時点で不登校が続いていたとしても、大切なお子さんは、今は自分の部屋に閉じこもりっぱなしかもしれませんが、「とりあえず元気で生きている!現時点では、それでよし!」「不登校だっていいじゃないか!」など、発想の転換をぜひお勧めします。

子どもの不登校について、「今、急いで無理やり治す必要はないんだ」、一度そんな考え方に変えてみませんか。そして、「不登校だからといって、無理に治さなくていいんだよ。一緒に考えていこうね」と言ってあげてください。いつか自立の道をしっかり歩き始められるように応援してあげましょう。

